

# 米政府が9・11の罪をイランに負わせ、105億ドルの罰金を科す——イランは拒否

【訳者注】この同じニュース(イランの拒否表明前の)が別のサイト(Information Clearing House)に載ったとき、読者の反応は、このキチガイ沙汰に対する嘲笑の爆笑と言ってもよいものだった。それが、今度ここで、より詳しく解説が付けられて紹介された。この詳細な説明を読むと、これはアメリカが冗談でやったことでなく、彼らなりに本気でやったことのようなのである。彼らの立場は、9・11の実行犯は完全無罪、犯人を空港で通過させた者に全責任があるということである。このような理屈は普通は通らない。

ここで助かるのは、イスラム教のスニ派、シーア派というよくわからなかったものが、明快に説明されていることである。アメリカにとって、サウド王族＝スニ派による世界制覇グループ＝最大の武器顧客＝テロリスト支払者はこの上なく有り難い存在で、彼らのNWOと相似形をなしている。これと結んで、その罪は問わず、イラン(シーア派)に全責任を負わせるのは、ほとんど必然とも言えるであろう。

Eric Zuesse

Global Research, March 15, 2016



3月14日、イランは、アメリカの裁判所が、9・11攻撃被害の賠償金としてイランに命じた105億ドルの支払いを、拒否すると通告した。

<http://www.presstv.com/Detail/2016/03/14/455633/Iran-Jaberi-Ansari-US-September-11-attacks/>

2015年9月29日に、サウジアラビアは9・11に対して主権免除をもち、訴追することはできないという判決を下した、同じビル・クリントン任命による裁判官が、最近3月9日に、イランは主権免除をもたないと裁定し、イランは9・11の犠牲者と保険業者に対し、105億ドルを払うように命じた。しかし3月14日、イラン外務省は払わないと回答した。理由は、同省 Hossein Jaberi Ansaiによれば、「この判決は滑稽で、あまりにも馬鹿々々しく、裁判の原理を愚弄するだけでなく、アメリカの裁判の評判を傷つけるもの」だからである。

<http://www.law360.com/articles/709063/saudi-arabia-gets-9-11-families-claims-tossed-under-fsia>

[https://en.wikipedia.org/wiki/George\\_B.\\_Daniels](https://en.wikipedia.org/wiki/George_B._Daniels)

アメリカは、イランの敵サウジアラビアと同盟を結んでおり、サウジはアメリカ製の武器の最大のバイヤーである。サウジはまた、どこで武器を買うかに関して、アラブ石油王族たちの湾岸協力会議でトップの影響力をもっている。ロッキード・マーチンや他のアメリカの武器メーカーの株主たちの死命を制する、このような買い付けは、サウジアラビアの持ち主であるサウド王族によって、基本的に決定される。サウド家は、世界最大の石油会社「アラムコ」の唯一の所有者であることを含めて、この主導的な根本主義的スンニ国家の所有者として、メッカとメディナという 2 つのイスラム教聖地の所有者でもあり、したがってイスラム教世界のリーダーである。なぜなら、すべてのムスリム（スンニ根本主義者だけでなく）は、1日に5回、メッカに向かってひれ伏して祈ることを要求されているが、これはサウド家と、サウド家の連続的なサウジアラビア所有を権威づける僧団——ワッハビズム僧団——に向かって祈ることでもある。

<http://www.globalresearch.ca/obamas-secret-deals-with-saudi-arabia-and-qatar-whats-behind-lower-gas-prices-and-the-bombing-of-syria-and-eastern-ukraine/5412311?print=1>

<http://www.washingtonsblog.com/2015/10/the-saudi-dynasty-key-u-s-ally-tops-the-world-in-barbarism.html>

[https://books.google.com/books?id=0t0bCgAAQBAJ&pg=PA211&lpg=PA211&dq=%22pray+in+the+direction+of+mecca%22+%22times+each+day%22&source=bl&ots=l-KkXHBVza&sig=zEbSY4NY-TKpp6eyNFhHvsu0xsw&hl=en&sa=X&ved=0ahUKEwi\\_47GKucHLAhWF2R4KHZ-9BjYQ6AEIIDAB#v=onepage&q=%22pray%20in%20the%20direction%20of%20mecca%22%20%22times%20each%20day%22&f=false](https://books.google.com/books?id=0t0bCgAAQBAJ&pg=PA211&lpg=PA211&dq=%22pray+in+the+direction+of+mecca%22+%22times+each+day%22&source=bl&ots=l-KkXHBVza&sig=zEbSY4NY-TKpp6eyNFhHvsu0xsw&hl=en&sa=X&ved=0ahUKEwi_47GKucHLAhWF2R4KHZ-9BjYQ6AEIIDAB#v=onepage&q=%22pray%20in%20the%20direction%20of%20mecca%22%20%22times%20each%20day%22&f=false)

遡って 1774 年、ワッハビズムの創始者ムハンマド・イブン・ワッハブと、サウジアラビアの建国者ムハンマド・イブン・サウドが、サウドの子孫がこの国を所有し、ワッハブの僧団が彼らにその所有権の神の承認を与え、信仰を広めるために他の土地を征服する権利を与えるように、合同で永遠の誓願を立てた。（宗教は歴史を通じて征服によって広められた。）

<http://www.sott.net/article/309445-Eric-Zuesse-The-Saudi-Wahhabi-origins-of-jihadism>

その誓願の一部は、サウド家が、シーア派ムスリムを絶滅させるということでもあった。それは世界中のイスラム教を、根本主義スンニ派として統一し、統一された（100%スンニの）信仰が全世界を占領できるようにすることであった。イランは、シーア派イスラム教の中心で、したがって、世界を征服して“ワッハビズム”に改宗させることを狙うサウド家の、特別の標的である。ワッハビズムは、サウジアラビアの外では“サラフィズム”と呼ばれ、イ

スラム教世界の外では、単に、根本主義スンニ・イスラムとして知られている。アルカーイダ、ISIS、その他のグローバル・ジハーディスト集団は、すべてサラフィストである。彼らはすべてスンニ派根本主義者である。シーア派イスラムは、この“グローバル・カリフ国”の構想、つまり世界を征服してすべての土地を、いつかイスラム教に“改宗”させようとする目標に当たるものを、全く持っていない。ジハーディズムは（スンニ派＝イランには）その意味では、存在しない——スンニ派の変種のようなものを除いては。イラン外務省のアンサリ氏が、この裁判官の裁定を「滑稽で馬鹿々々しい」と評したのは、おそらく、その事実を指していた。（ただし、シーア派イスラムは、スンニ派イスラムより反イスラエルの姿勢が強い。しかしこれもグローバルな野心のようなものではない。それは厳しく中東的なものである。そしてもちろん歴史家も米政府も、こうしたことを知っている——アメリカ民衆は知らなくても。なぜかという、もしアメリカ人一般が、この国の外交政策を動かしているものが、実は何だったのかを知れば、政府にとっては都合の悪いことになるからだ。）

<http://www.globalresearch.ca/obamas-secret-deals-with-saudi-arabia-and-qatar-whats-behind-lower-gas-prices-and-the-bombing-of-syria-and-eastern-ukraine/5412311?print=1>

この件の裁判官ジョージ・B・ダニエルズが、彼の「事実認定と法の結論」——この場合 Fiona Havlish vs. Usama Bin Laden と呼ばれる——において引用している証拠（と言われるもの）によれば——

[http://information.iran911case.com/Havlish Findings of Fact and Conclusions of Law Signed 12-22-11.pdf](http://information.iran911case.com/Havlish_Findings_of_Fact_and_Conclusions_of_Law_Signed_12-22-11.pdf)

イランは事実上 30 年にわたって、アメリカとイスラエル両国に、宣戦布告なしの戦争を仕掛けていた。・・・イランはこの布告なしの戦争を、一方的な、あるいは非通常戦術とテロリズムを用いて、しばしばヒズボラ、ハマス、アルカーイダ、その他の代理戦闘員を用いて仕掛けてきた。[実は、ハマスは、パレスチナのスンニ派根本主義組織で、したがってユダヤ人のイスラエルだけでなく、シーア派イランの破壊を狙っている。アルカーイダも同様、サラフィスト、その他もすべてサラフィスト]・・・

<https://en.wikipedia.org/wiki/Hamas>

20 年以上もの間、IRGC [イランの最高司令官 Ali Khameni の管轄する“イスラム共和国防衛隊”] は、ヒズボラやアルカーイダを含め、アメリカ市民を狙ったテロ作戦を資金援助し訓練してきた。[ヒズボラがアメリカ市民を狙ったというのは、レバノンにいた米軍勤務職員のこと、それはヒズボラが反イスラエルではあっても、反米だからではない。米軍がイスラエルを保護しているからである。しかしアルカーイダは、スンニ派でない者をどこでも攻撃する。これはアルカーイダが当然、反シーアであること、

したがってイランの征服を狙っていることを意味する。アルカーイダはサラフィストであり、スンニ派でないすべての国家の征服を狙っている。イランは、アルカーイダや ISIS のような自分自身の敵を、援助したり訓練したりすることはない。]・・・

(以下、十数行の“証拠”とそれへの批判を省略する。)

イランの3月14日のニュース・レポートは、アメリカの判決を要約して、このように言っている——

この裁判所裁定は、数人の攻撃者がイランを経由し、パスポートにスタンプを押されずに通り抜けたと述べている「9・11調査委員会報告」(9/11 Commission Report)を根拠にしている。

判決は、9月11日の19名のハイジャッカーのうちの誰も、イラン市民だとは言っていない。15人はサウジアラビア人であり、2名はアラブ首長国連邦[サラフィズムの支配するもう一つの国家]から来ており、エジプトとレバノン[ともにサラフィズム国]から一人ずつと言っている。

“何人かの攻撃者”を、移動のために他国を利用するように要求することなく、イランをフリーパスさせたという主張が、9・11の責任をイランに負わせる裁判所の根拠になっているが、この裁判所の事実認定には、イランが9・11攻撃に参加したとは全く言っていない。しかもその認定事項の中にさえ、次のように書かれている——「アルカーイダの実行犯 *Khalid Sheikh Mohammed* と *Razmi Binalshibh* (現在グアantanamoに収監中) は、イランがパスポートにスタンプを押さなかったこと以外には、ハイジャッカーたちがイランを経由したどんな理由も、ハイジャッカーとヒズボラのどんな関係も否定しているが、・・・彼らの否定は信用できない。・・・イランの国境官憲が、サウジのハイジャッカーのたちのパスポートにスタンプを押さなかったという行為は、9・11計画の成功にかかわった可能性を甚だしく大きくする。」

要するに、米政府は、9・11はイランの責任であり、イランだけの責任だとして、サウジや彼らのサラフィスト仲間には、全く責任はないと言っているのである。しかし、あるアルカーイダのためのカネ運び屋によれば——この男は、アルカーイダへの何百万ドルという寄付を現金で集めて旅行していて、この寄付によってこの組織が、9・11ハイジャッカーを含め、すべての戦闘家に支払いをしているのだが——ほとんどすべての寄付者が、サウジの王族メンバーとそのわずかの友人であった。

<http://www.washingtonsblog.com/2015/02/al-qaedas-bookkeeper-spills-beans.html>

名をあげられた数百万ドル寄付者の中には——王子 Bandar bin Sultan al-Saud, 王子 Waleed bin Tallad al-Saud, 王子 Turki al-Saifal al-Saud, および王子 Mohammed al-Faisal al-Saud がいる。さらに彼は、封印された手紙を、ビン・ラーディンと Turki や Abdullah, Fahd, Salman (現王)・・・(数名省略)・・・の間に往復配達していた。ビン・ラーディンは彼らに、誰が次の王になるべきかを助言していた。・・・彼は、王族たちはビン・ラーディンに寄付をしていたが、それは彼が信仰を広め、したがって Ulema (僧侶たち)にとって重要な存在だったからだ、と言った。

彼らがアルカーイダに寄付をするのはそのため——信仰を広めるためだった。9・11の背後の究極の者たちは、サウジの王子たちだけでなく、僧侶たち、すなわちキング・メーカーたちだった。しかし、サウド家や、より小さな、アラブの石油王国を支配する王族たちと同じように、米政府も、最初の1953年のクーデタのときのように、もう一度イランを征服したいと思っている。そこでアメリカの裁判所組織が、この決定によって、イラン政府を9・11の一つの原因でなく、実質的に、唯一の原因だと宣言した。それはイランを締め付けて、最初の時のように望むらくはCIAによって、もう一度“革命”が起こるまで、彼らを抑えつけておく方法である。

<http://www.washingtonsblog.com/2016/01/obamas-invasion-plan-syria-drawn-kim-roosevelt-1957.html>

さらに、9・11の犠牲者の遺族について言えば、米政府は、彼らに対するどんな形の真の“裁き”に関わるよりも、当然、優先すべき順位がある。イランを罰すること(アメリカのやり方で、根拠が崩れるまで)は、アメリカ当局にとって、はるかにより重要なことである。犠牲者の遺族は、彼らの“裁き”(賠償)にありつけるとしても、それは天国に行ってからでしかない。